

破傷風

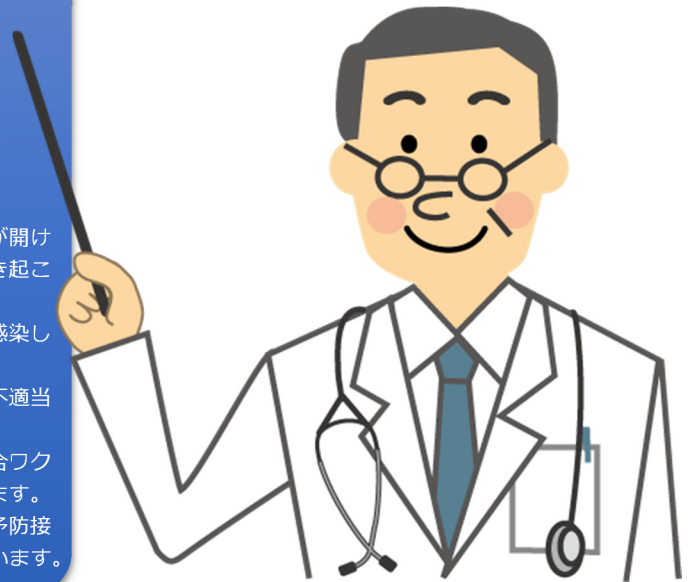
Tetanus

破傷風は、破傷風菌が産生する毒素によって、口唇や手足のしびれや口が開けにくいといった神経症状を引き起こし、治療が遅れると全身けいれんを引き起こし死に至る感染症です。

破傷風菌は全世界の土壤中に広く分布し、おもに傷口についた土などから感染します。

特にアフリカ、東南アジア、中南米などの途上国では、ワクチンの不足や不適当な傷の手当などが原因で患者が多く発生しています。

日本では、三種混合ワクチン（ジフテリア・百日咳・破傷風）と二種混合ワクチン（ジフテリア・破傷風）の定期接種が実施され、患者数は減少しています。患者の年齢分布は、若年層では予防接種を受けているため少なく、一度も予防接種を受けてなかったり、ワクチンの免疫が消失した高齢者層で多くなっています。



病原体

- 破傷風菌。孢子の形で土壤中に広く分布しています。

感染経路

- 破傷風菌が、傷口についた土などから体内に侵入し感染します。
- 傷口に木片や砂利などの異物が残っていると、破傷風は発病しやすくなります。

潜伏期間

- 3日～3週間（平均4～7日）

症状

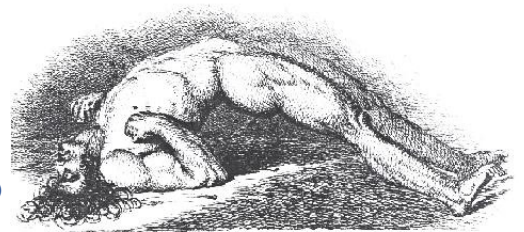
- 口を開けにくい、首筋が張る、寝汗をかくなどの症状があらわれます。しだいに口が開けにくいといった硬直感が出て、手足にもこの異常感覚が広がり、この時点で診断が遅れたり抗毒素が注射されなければ、腹部を突き出すように全身を弓なりにけいれんさせて、約4割（新生児で8割）が死に至ります。

破傷風兵士の絵

（クリミア戦争に従軍した

Sir Charles Bellによって描かれた。

破傷風の症状を良く表している。）



予防法

1. 予防接種が最も有効な予防方法です。

前回の接種から**10年以上経っている方は、1回の追加接種をお勧めします。**
口を開けにくい、首筋が張る、寝汗をかくなどの症状があらわれます。

2. ケガに注意しましょう。

旅行者の方では、裸足で川遊びなどをしたり、誤って物を踏んだときに足に傷を負ったり、運動中や交通事故、動物にかまれてけがを負ったときなどに、感染が多くみられます。

日常けがをしないよう心がけ、傷を負ったときは、まず水で傷口を洗い流し消毒します。破傷風菌は空気に触れない状態を好む菌で、傷口がふさがると増殖するので、不用意に傷を閉じたりせずに早めに医師に相談して下さい。

3. 院内感染に注意しましょう。

途上国の不衛生な医療施設では、歯医者での抜歯や出産や手術などで感染することがあります。長期滞在の場合、安心できる医療機関を確認しておきましょう。

